

令和3年度 学校関係者評価報告

鹿児島中央看護専門学校3年課程看護科では、平成23年度より教育活動実施状況を総合的かつ客観的に点検・評価し問題点を明らかにした上で次期の教育活動や学校運営の改善に活かし、開かれた学校づくりを進めることを目的とした「教育自己点検・自己評価」（令和元年度より「教育自己評価」とする）を実施しています。更に、令和元年度から関係業界、保護者代表、学職経験者から成る「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価も実施することといたしました。特に令和3年度は、2年度の改善事項について、学校評価委員会を立ち上げ、各事業チーム活動を展開した。

令和4年3月16日に「令和3年度教育自己評価」「令和3年度事業報告」の結果をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和4年4月30日

●学校関係者評価委員

高谷 哲也 鹿児島大学教育学部
富安 恵子 前鹿児島中央看護専門学校校長
木佐貴 涼子 公益財団法人慈愛会統括看護部長兼看護部支援室室長
松山 郁子 同窓会やよい会会長

評価会参加教職員

校長：今村英仁 副校長：久徳美鈴 顧問（兼）教務主任：大保まり子 事務長：飯田珠美
実習担当主任：櫻美尚美 専任教員：兼石彰、飯田かずよ、松山日実子

●学校関係者評価

【教育理念・目標】 自己評価 3.7 (R2: 3.4)

- 令和3年度は、令和4年度から適用となるカリキュラム改正に向けて、全職員で検討、協議を重ねた。新カリキュラムで目指すディプロマポリシーに向けて一貫性のある教育課程を編成した。8つのディプロマポリシーは、これからの看護職に求められる能力と本校の強みを反映したものとなっている。新カリ運営に向けて、教員間のベクトルを合わせ教育活動に繋げてほしい。また、各関連施設等関係者への周知活動も行えており、高く評価できる。
- 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想については、本校の課題であったが、令和3年度、臨床と一体化した学校移転プロジェクトが始動した。2026年の新校舎移転に向けて、地域に必要とされる学校づくりを進めて行く。学校の将来構想が見えてきたことは評価委員からも期待の声が聞かれた。

【学校運営】 自己評価 3.6 (R2: 3.2)

- 教育目的に沿った運営方針が策定され、運営方針に沿った事業計画のもと適切な学校運営がなされてい

る。また、学則に準じ、意思決定機能は有効に機能している。

- ・ 本年度の学校運営方針は、「あらゆる場で主体的に看護を創造、発展させていける看護師の育成」を掲げ、6つの事業目標を上げ、事業を行なった。主な事業は、放送大学との併修制度の開始、卒業生サポートキャンパスの開始、臨床現場と協働する交流研修等である。
- ・ 各業務基準・人事考課制度等も整備されており、2年度から看護教員キャリア開発ラダーの運用を始めてきたが、本年度は各教員が目標をもってラダー取得に取り組むことができた。看護教員の動機づけとなり教育の質向上に寄与すると評価された。
- ・ 情報システム化等による業務の効率化についての評価は本年度 3.8 と改善した。以前から情報機器や教育システムの導入、電子連絡網の整備等早期に取り組んでいる。令和 2 年度から電子テキスト導入、コロナ禍において Teams 等の活用を整備し、学生とのコミュニケーションツールとしても機能し遠隔授業も実施できた。
- ・ 令和 3 年度からは、教務事務を配置し、事務的業務のタスクシフト体制を整備でき、専任教員の事務的業務の移譲が進んだ。

【教育活動】 自己評価 3.8 (R2: 3.2)

- ・ 教育理念に沿った教育課程の編成がなされ、年間計画に沿って実施されている。3 年度も、コロナ禍において非常勤講師等の授業が変更となる科目もあったが、遠隔授業も取り入れながら、授業を実施できた。
- ・ 実践的な看護教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が行われ、オスキーやポートフォリオ学習、災害演習なども継続的に実施されている。また本年度は、シミュレーション教育に力を入れ、学生の能動的な学習を支援することができ、評価された。
- ・ 授業評価の実施・評価体制については本校の課題であったため、3 年度は「講義」「演習」「実習」の授業評価に教員を含む非常勤講師の協力も得て取り組んだ。今後も積極的に運用し評価活動に役立てる。
- ・ 学生便覧及びシラバスは本年度から冊子とし、学生が活用しやすいように工夫した。また、学生がタイムリーに閲覧できるように、Teams に掲載した。また、学年ごとのシラバスガイダンスは毎年実施し学生の主体的な学習の動機づけとしている。しかし学生が主体的に活用することをねらい、活用方法の工夫が必要であると意見を頂いた。
- ・ 国家試験対策は、3 年間を通して支援できるパスに沿って、対策を実施し成果を挙げている。

【学修成果】 自己評価 3.7 (R2: 3.0)

- ・ 国家試験は高い合格率維持している。令和 3 年度 100%の合格であった。
- ・ 卒業率も高く 98%である。退学（1 名）・休学（2 名）である。本年度はクラス運営目標に学生の単位取得支援を挙げ取り組んでいる。また、コロナ禍の中、心理カウンセラーとの早期連携や保護者面談を行ない学業継続ができるように関わっている成果とみている。
- ・ 卒業生の活動状況の把握については、2 年度の評価も低く課題であったため、令和 3 年度は、卒業生の 1 年目・3 年目のサポートキャンパスを開催できた。その中で卒業生の看護実践力評価も分析することができた。本校の教育活動の成果も明確となり、「チームワーク」「基本的な看護技術」「コミュニケーション力」「倫理観」「人を理解する力」などは備わっていることがわかった。また、課題となる「問題解決志向」「創造的思考力」「質の高い看護を探究する力」などもわかった。今後も卒業生の活動状況の把握と共に本校の教育活動の改善につなげる。

【学生支援】 自己評価 3.4 (R2 : 3.2)

- ・ 課外活動や学習環境への支援については、令和元年と同様低値であった。本年度も、コロナウイルス感染症の影響もありボランティア活動も制約を受けた。しかし、ICT 環境等のハード面、ソフト面の充実、本校受験生の選択の大きな要因になっている。選ばれる学校となるよう、シミュレーション教育のためのハイブリッドシミュレーターモデルの活用及び演習モデルの購入など学習環境充実を図っていく。
- ・ 学生の経済支援については安心して学業継続できるように、社会情勢に合わせて専門実践教育訓練給付金講座指定取得、令和 2 年から高等教育無償化要件もいち早く取り入れており、学生ファーストの姿勢が感じられる。また、3 年度は、放送大学との併修制度で学ぶ学生や経済的に困窮している学生に対する返済の必要のない奨学金（節英会）が加わり、学生への篤い経済的支援に繋がっている。

【教育環境】 自己評価 3.5 (R2 : 3.2)

- ・ 学校施設などのハード面の制約がある中で、学生の学びやすい環境を整備していく必要がある。
- ・ コロナ感染症の対応については、随時マニュアルを整備・更新し、発症時のシミュレーション計画に基づき対応でき、学内での感染者クラスターを起こすことなく、感染拡大を防止できた。
- ・ 実習は、ほとんどの実習が慈愛会の関連施設で実施し、温かい支援指導を受けられることが本校の強みでもある。各施設の会議も積極的参加し、学生の学びを双方で共有している。また、新カリキュラムが目指す教育や臨床判断能力の育成に向けて、各施設の実習指導者との協働学習を進めることができた。学生の学びを支援する篤い実習施設があることは本校の最大の強みとなっている。
- ・ 本校は、専任教員資格者（92.5%）を確保している。看護教員キャリア開発ラダーをしっかりと定着させ教員のスキル向上に努める。

【学生の受け入れ】 自己評価 3.6 (R2 : 3.1)

- ・ 入学生の確保に向けては厳しい状況である。本校は、在校生の口コミ、卒業生の活躍もあり、推薦入試、一般入学試験の 2 回の選考試験で入学者は確保できている。本年度は新たに始まる新カリキュラムに向けて、アドミッションポリシーを募集要項に掲載し、入学選考基準も可視化した。応募者は減少したが、辞退者も少なく、学生を確保できた。今後の学生確保は増々厳しくなることをふまえ、学校の強みをさらに高め、学生確保につなげる。学生受け入れについては高く評価して頂いた。

【財務・法令等の遵守】 自己評価 3.7 (R2: 3.2)

- ・ 新カリキュラムに係る「学則の変更承認申請」は、鹿児島県くらし保健福祉部の指導を頂きながら承認を得ることができた。また、令和 3 年度は、看護師養成所の指導調査を受けた。学生の定員に関する事項や授業時間数等の改善を求められた。指導に従い改善計画を提出した。今後も法令を遵守した学校運営に努める。
- ・ 学校教育自己点検・自己評価の実施、学校関係者評価委員会の開催、結果の公表は継続しており、改善活動に活かしている。

【社会貢献・地域貢献、国際交流】 自己評価 3.0 (R2: 2.9)

- ・ 3 年度もコロナ感染症拡大の影響を受け、各事業が中止となり参加ができなかった。しかし、コロナ禍で全国

的な献血量が不足する中、3年生が多数献血に協力し、県赤十字血液センターの担当者から感謝された。この取り組みは評価委員からも高い評価を受けた。

- ・ 専任教員の看護協会関連等の講師派遣を積極的にを行い、地域貢献している。
- ・ 海外からの帰国学生や留学生受け入れに関しては、体制を整えていない。今後、多様な学生の受入れのため情報を収集していく。

【研究・研修活動】 自己評価 3.4 (R2: 2.9)

- ・ 研究活動については、本校の課題であったため、組織的な風土を創ることを目標とし、本年度は研究委員会を立ち上げ、計画的に研究活動に取り組んだ。研究発表 2 演題の実績となった。
- ・ 教職員の研修参加については、コロナ禍ではあったが、e-ラーニング研修や Web 研修等、各ラダーに必要な研修を受講した。研修後は、教員会議等で情報を共有し、教育活動に活かすことができている。

● 学校関係者評価委員 総評

- ・ 卒業生を多く現場で受け入れている立場から、新人看護師のリアリティショックを防ぐことができるよう関わっています。コロナ禍で実習経験の少なさも影響していると思われませんが、社会人としてのマナーなども学校教育になかでも重視し、学生を育ててほしい。このような学校関係者評価会の参加は初めてでしたが、学校の取組もわかり参考になりました。学校教育の到達なども踏まえながら、現場教育に繋げて行きたいと思います。
- ・ 令和 2 年度の評価を活かしながら、コロナ禍の中、本当に大変だったと思いますが、臨地実習等も工夫されていたのがわかりました。授業を展開する上では、シラバスの主体的な活用を工夫していくことが大事かもしれません。教える側も学習目標を常に意識させていく必要を感じました。また、これからは地域包括ケアの中で看護を展開できる力が必要になります。問題解決思考のプロセスをしっかりと記録できることも大事です。臨地実習を通して、そのような力がついていくことを期待します。
- ・ 令和 3 年度の取組み、教育自己評価をみると、学校の頑張りが良くわかりました。カリキュラム改正への申請作業やコロナ禍の中、教職員全員で様々なチーム活動にも取り組まれておりすばらしいと感じました。これからは、少子化の影響で益々、学生の確保は厳しくなると予測されます。本年度のオープンキャンパス参加者がどの程度、受験に繋がったかデータ化していくといいと思います。本校の強みをしっかりと PR できるよう今後も取り組んでほしい。
また、本年度取り組まれた卒業生のサポートキャンパスはとてもいい取組であったと思います。本校の強みは卒業生が学校を大事に思ってくれるところなので、これからも継続してください。
- ・ このような機会に参加できて、感謝しております。教育学を学生に教えているところから、教育の質を上げる観点で少し意見を申し上げたいと思います。専修学校で学ぶ学生をどう成長させて現場に繋ぐかが使命ですので、高校までの学生の学習の方法から看護学生となり主体的に学んでいく姿勢へと変化させていくことを、先生方はされていくと思います。本校の学生さん方はとても貴重な学びや体験をし、先生方から認められ、いい環境の中で学んでいると感じています。そのような学生さん方の経年的な変化を可視化し、公表に活かすなどの工夫があれば、必然的に学生も集まってくるのではないかと思います。そこで学んでいる人の言葉や卒業生の学生時代のライフストーリーの可視化は先生方の教育活動の成果でもあるので、ぜひ、工夫し取り組んで頂きたいと思います。

●学校関係者評価 総括

今回の学校関係者評価は「令和3年度教育自己評価報告」「令和3年度事業報告」をもとに実施いたしました。特に本年度は、2年度の評価事項を活かしながら、学校評価委員会を立ち上げ、目標に沿って取り組んだことを丁寧に評価して頂きました。本年度の大きな事業は、放送大学との併修制度の開始、卒業生サポートキャンパスの開催、授業評価の開始、教務事務配置によるタスクシフティング、新カリキュラムの変更承認申請等でした。また、新カリキュラム適用に備え、新カリキュラムの周知活動の実施、臨床との共同学習などの実施は基盤づくりとなりました。

また、施設設備面におきましては、施設の老朽化が進んでおり、今後、大規模改修や、建替え等を含めた検討を進めていくことが重要な課題となっていました。2026年の新校舎移移転に向けて動き出しました。地域や病院とつながる夢のある学校づくりを進めて参ります。

今後におきましても、より良い学校運営を推進していくため、学校関係者の皆様から頂きましたご意見を真摯に受け止め、学校運営に活かしていくとともに、本校の教育理念に沿った、質の高い卒業生を看護師として継続的に輩出し、地域医療に貢献していけるよう努めていきたいと考えております。ご協力、ありがとうございました。